

Weekly Bulletin 2021-2022



RI会長
シェカール・メータ



奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

静岡東ロータリークラブ

会長／川崎依子 幹事／長田きみの

事務局／静岡市葵区追手町2-12 静岡安藤ハザマビル5F TEL054-254-5611

例会場／ホテルアソシア静岡 例会日／毎週 木曜日 12:30~13:30

<http://www.shizuoka-east-rc.jp>



会長
川崎依子

第2992回 日本平RC 合同例会 令和3年 7月16日(金)

《合唱》 「それでこそロータリー」

《ゲスト》	ガバナー	小林 聡一郎 様
	ガバナー補佐	八木 伸廣 様
	地区幹事	中尾 均 様
	ガバナー補佐事務局	望月 重伸 様

《会長挨拶》

静岡日本平RC 中村 憲司会長



皆さん、こんにちは。本日の例会は静岡東 RC と合同のガバナー公式訪問です。お客様として国際ロータリー第2620地区ガバナー小林聡一郎様、静岡第3グループガバナー補佐八木伸廣様、地区幹事中尾均様、ガバナー補佐事務局望月重伸様をお迎えしております。小林ガバナーには後ほどスピーチを頂きます。宜しく願います。今回の例会は静岡日本平RCがホスト役となっていますので大変僣越ですが、私から先にご挨拶申し上げます。静岡日本平RCは今年50周年の節目を迎えます。50周年の記念事業として、観光の名所日本平の山頂に「はじまりの鐘」を設置します。今までも周年事業として日本平のパークウェイにつつじや、舞台芸術公園やハイキング用の遊歩道に桜の植樹、日本平動物園に時計台やベンチなどを寄贈してきました。今回は山頂の東展望台の中に鐘を設置する事業です。数年前から企画して県や市との折衝を何度も繰り返しようやく今年の9月に設置することが出来るようになりました。正式名称を「日本平はじまりの鐘」と呼びま

す。この名前のは「日本平」の地名に由来します。「日本平」という地名はヤマトタケルノミコトと大きく関わります。漢字で書くと日本武尊となりますが、その日本の文字と平な山の地形から大正時代に徳富蘇峰によって名付けられました。古事記や日本書紀によるとヤマトタケルノミコトが国の勢力拡大のために東征に旅立ちます。その行く手を当時、このあたりの豪族達に焼き討ちされます。焼津の地名もそこから来ています。追い詰められた日本武尊は三種の神器のひとつでもある「草薙の剣」を使って草木を薙ぎ払い山頂に登り難を逃れました。そしてこの地で再起を誓い、今も続く日本国のはじまりを創って行きました。今回創る「日本平はじまりの鐘」も新しい夢に向かって旅立つ時に富士山や駿河湾に向かって願いをこめて鳴らします。ヤマトタケルミコトの力も借りてきつとお利益がありパワースポットとして日本平に多くの人々が訪れることを願います。おまけですが、50周年記念ソングとして「はじまりの鐘」の歌も作りましたので機会があればご披露させていただきます。以上会長挨拶と致します。

静岡東RC 川崎 依子会長

皆様こんにちは。静岡東RC 今年度会長の川崎依子と申します。どうぞよろしくお願いたします。小林ガバナー、地区幹事の中尾様ようこそいらっしゃいました。また八木ガバナー補佐、事務局の望月様 先週に続きお越しいただきありがとうございます。本日は日本平 RC との合同例会ということで、久々に多くのロータリアンと集うことができるとてもうれしいです。今週月曜日には第4回日の緊急事態宣言が東京と沖縄に発動され、東京オリンピックも東京、千葉、埼玉、神奈川で無観客開催となりました。コロナワクチン接種が進み、そろそろロータリーの活動も以前のようにできるかと思いましたがまだまだ難しいですね。そんなコロナ禍の中、今年度の会長幹事会では活発に情報交換ができていないかと私は思っています。蜜を避けなければならない状況で、どのように例会を工夫してやっているのか、また会員の減少を抑えるためにどのようなことをしているかなどを話し合っています。そして「ロータリー奉仕デー」の開催が義務付けられたことで、今まであまり知らなかった他クラブの活動の内容を共有でき、協力し合うことができるようになりました。日本平RCさんが来年4月16日に計画されている「TOGETHERS MARCHE In しずおか」に静岡東RCも

是非何らかの形で参加させていただけたらと思います。本日は Zoom ではなく、本物のガバナーに初めてお会いすることができました。お話を楽しみにしております。

《幹事報告》

熱海災害義援金募金：2,349 万円（7 月 14 日時点）
うち静岡東 RC38,000 円

《ガバナー公式訪問》

小林 聡一郎ガバナー（甲府北 RC）



◇共存の中にこそ自分を生かす道がある

私たちはクラブをかけがいのない場と思い、例会を友愛や学びの場として尊く思ってきました。そして互いを思いやりながら、その心を地域や世界に向けて視野を広げ、活動を広げてきました。日本的な感性でそのようなロータリーを形成し発展させてきたのだと思いますが、日本という風土に見事に適合したロータリーだと思います。

一方世界的には、奉仕活動を主体にロータリーを考える傾向にあり、ロータリー財団のポリオ根絶を始めとする取り組みのように、より多くの会員でより大きな奉仕活動を目指すこととなります。実際世界では、それだけ多くのニーズが存在し、ロータリアンの支援を必要としていることも現実です。

ロータリーには最高絶対の単一概念が存在しません。常に「奉仕と親睦」「利己と利他」のように相対的に考えることを要求されますので、一つに決めつけるのではなく、日本的感性のロータリーと奉仕活動の世界のロータリーとを、どのように考えるのかということになります。

でもこれは今の私たちにとっては、相反することではありません。どちらか一方のロータリーしかないのではなく、その両方のバランスを上手にとりながらクラブに軸足を置いて、地域や世界で奉仕活動をしているという姿ではないでしょうか。当然クラブや例会を自己研鑽の機会と捉えてもいるでしょうし、人格形成の場ともしているでしょう。そしてそういう自分を他者のために活かすことも大きな使命とと思っているのだと思います。一人では生きられない共存の中にこそ自分を生かす道があるということだと思います。

◇RI 会長テーマ「SERVE TO CHANGE LIVES」

今年度のシェカール・メータ RI 会長はテーマに「SERVE TO CHANGE LIVES 奉仕しよう—みんなの人生を豊かにするために」を掲げられました。そしてキーワードは「GROW MORE DO MORE」で、若い世代と女性をロータリーに迎え入れて会員基盤を強くし、人々の人生が豊かになるよう奉仕活動をしましょう、と要請されました。世界的なニーズに応えるロータリーの傾向に合致した年度テーマだと思います。

地区においてクラブにおいてこの要請をどのように具現化するかということで、会員基盤の強化については私なりの取組方策を提示させていただき、ロータリー奉仕デーについては各クラブに計画・実施していただくことにしております。会長始め会員皆さまのご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

◇Online で新たなつながりを

ワクチン接種が進んでいるとはいえコロナ禍で視界不良のクラブ運営になりますのでご苦労されると思いますが、クラブに軸足を置いた例会と奉仕活動のバランスを上手にとって、会員相互の連携を強め、地域や世界で奉仕活動をしてくださいようお願いいたします。

コロナ禍を経験した私たちは、online での新たな繋がり方を手に入れました。Online 開催の地区 RLI は何回もの実績を礎として、全国的にもトップクラスと高評価されていますし、各クラブにおいてもハイブリット例会や online 例会なども行われています。窮屈で不自由なコロナ禍でも人と人との繋がりには有効な方法ですので活用いただきたいと思います。

◇ロータリー未来形成 (Shaping Rotary's Future)

今年初めに RI は「未来形成 (SRF)」という新たなプラン概要を提示しました。主には 2030 年から始める管理方法改革のためのプランで、2022 年 4 月の規定審議会での審議対象になると言われています。現在分っているのはここまでで、これから提示に対しての意見を取り入れながら形成されていくことですから、具体的にどのようなものになるのかは現状でははっきりしません。しかしこのようなロータリーの未来に向けての取り組みが始まっていることだけのご承知置きいただきたいと思います。今年度これがどのように動き、地区としてどのように対処していくのかも手探り状態ですが、将来の地区にとって不利にならないような検討だけはしていかなければならないと思っています。

クラブ会長、幹事を始め、会員の皆さまと一緒に、本年度の第 2620 地区が「GROW MORE DO MORE」出来ますよう、ご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

《本日のお祝い》なし

《スマイル報告》なし

《出席報告》なし

(会報作成 石田 純一)